



asterisk
I

Presented by
Shin Todoroki

R18





asterisk
I

ごめんなさい
指揮官様…



お待たせ…
しました

巡洋戦艦
レナウン
ちゃ…着任
しました…

わたしは
もう…

…はい

くく…
待ちかねたぞ さあ…
こっちへ来て
よく見せるんだ



失礼：
します

汚れて—
しまいました

グハハ
あのレナウンが
尻丸出しで
上官の机の上に
乗るとはな

なんと
はしたない

なぜ…

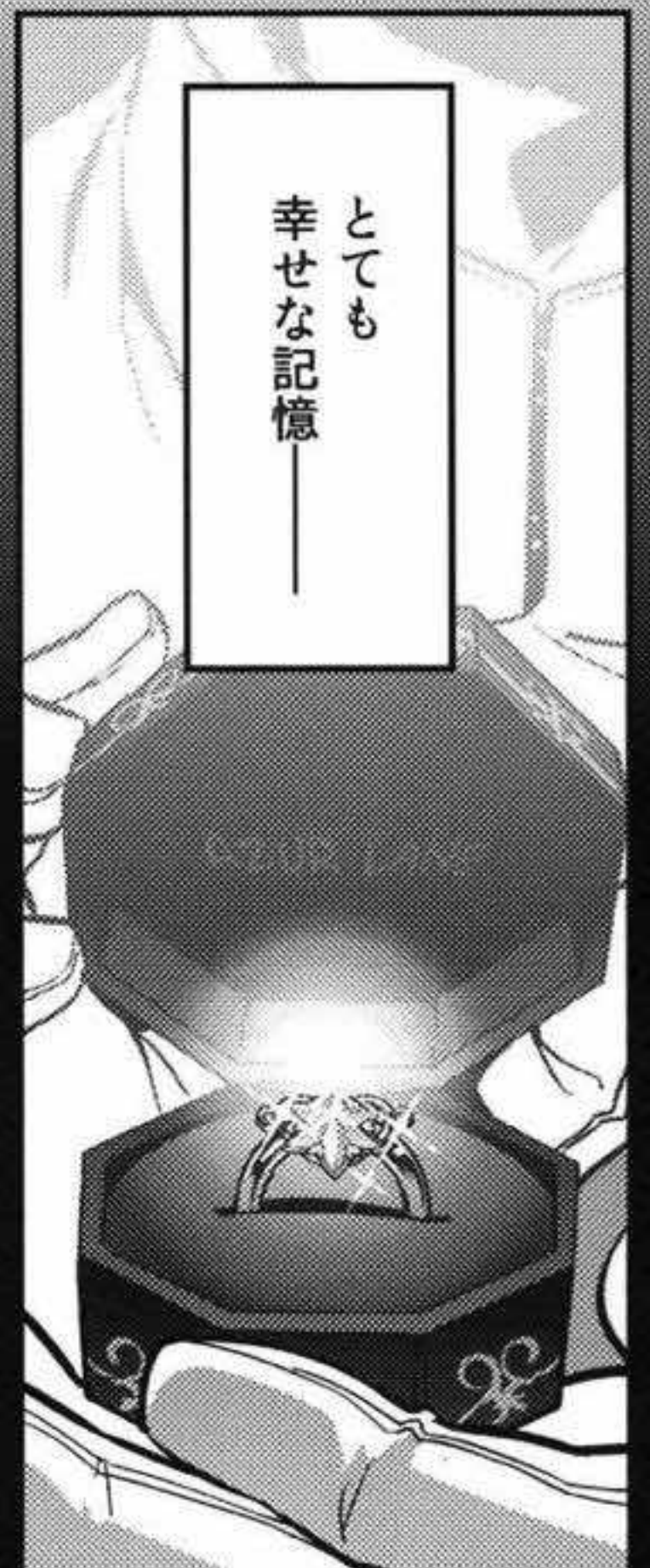
—
ッ



どうして
こんな事に…
罪悪感の中
思い返される
のは…



でもそれは
最初だけ…



とても
幸せな記憶

婚約をしたものの
私達は式を挙げる
余裕もなく

辞令

任海

レ補佐

任務に追われる日々を
過ごしていました

そんな時

レナウンを
補佐艦に……
ですか？

うむ、随分
優秀だと
耳にしてな

司令官様が
着任されたのです

まあ、辞令と
言っても畏まった
ものではない

要は通常任務の後
ワシの雑務も手伝うて
貰いたいただけなのだ

は、しかし……

それにだ
君達二人にとっても
悪い話ではないぞ

?

キミの事だ
未だ式も挙げて
おらんのだろうか？

ご存知でしたか……
お恥ずかしい

ふふ……そこでだ
ワシに少しツテが
あってな口利き
をしてやる代わりに
という訳だ

どうかね
悪い話では
ないかろう？

あっあのッ！

私なら問題
ありません

おお！
引き受けて
くれるかね

想い合っていたら
形に拘ることはない
そう思っていた
はずでした…

レナウン…
大丈夫かい？

はい！
ご安心下さい

その時の私は
指揮官様との絆を
確かなものに
したいあまりに…

ではこの辞令は
正式なものとして
提出しておこう

追って通達
させるので
本日はここまで
としよう

ハッ
それでは
失礼します

失礼します

目先の欲望に
飛びついて
しまったのです

ああ…
ヨロシク
頼むよ

三十一

—それが
罨とも
知らずに…



ぐふふ…
ん〜やめても
良いのか？
ならば
例の件は
無かった事
になるが…？

おっ…
おやめ下さい…
こ…こんな
任務では
ありません

か、構いません
結婚式なんて
しなくても
私達は—



繋がっている…か
どうだろうな？

ワシは
お前達の上官だと
言う事を忘れて
もらっては困る
左遷でも除隊でも
引き離す方法なら
いくらでもあるぞ？

…ッ！

なあに
おぼこまで
奪いはせん
ワシは
コッチ専門でな

まあ、お前が
奪ってくれと
言うなら
やぶさかでは
ないがな

ふふ、まあいい
自分の立場が
理解出来たなら
始めるとしよう

そっ
そん事

ん！！

グッ！！

ほほう…

これが
レナウンの
ケツ穴か

ーッ

自分でさえ
見た事の無い
不浄の穴

他人に…しかも
好奇の目で
見られる

ククッ
なんだケツ穴
じゃ不満か？

ケツマンコ
としてはまだ
使えんからな

これから
ワシ好みの
ケツマンコに
調教してやろう

あまりの羞恥に
私は堪える事で
精一杯でした…

い、やあ…
言わないで
ください…

もちろん
ソレで終わる
はずもなく—



あぐ…
ゆ…び…

今度は司令の指が
私の中に侵入して
来たのです



突然の異物に
私の体は拒絶
しました

んあ…

あッ
うぐ…

しかしそんな事など
意に介さぬように司令は
指を埋めていきました



うむ、外は
硬かったが
中は良い具合
ではないか

これは先が
楽しみな
ケツ穴だな
クククッ

腸内を弄ばされる
おぞましき…

脅迫に屈し
抵抗すら出来ない
惨めさ…

様々な感情が
私を渦巻く中



何...?

別の：
知らない感覚
が混ざり
始めたのです



その感覚は
またたく間に
全身を飲み込み――

ダメ：
お尻から
なにか…来る



お前たち用の
特別製だ
ほれ指も
もう二本も
飲み込んでおる

ハハハ..



効いてきたか

？

ふふ：

この潤滑油には
媚薬が仕込んで
あつてな

媚薬？

あ

ん

イク…？

ああ…
イクとはな—

ヒヒ
そろそろ
イキそうか
イッても
構わんぞ
イキたいなら

カチ
カチ

カチ
カチ

わたしは—

コレだ



絶頂を
迎えました

初絶頂で
潮まで
吹くとはな

肛門で…しかも
潮を撒き散らし
ながら――

チッッッ

グッ



どうだ？
ケツ穴でイッた
感想は…と
聞こえておらんか
まあいい
調教は始まった
ばかりだからな

こうして
私の任務は
始まりました

そしてそれは
私の日常をも
蝕んで行きました

コレ…は？

ああ、ワシからの
プレゼントだ
契約指輪付きのな

特別任務以外は
コレを入れて
過ごすのだ

ワシのモノを
くわえ込める
ようになるまでな

日中は
異物を入れて
過ごし…

夜は徹底的に
肛門快楽を
教え込まされた

次第に私は
その事ばかり
考えるよう
なり—

…ワシか

レナウン

すみません

やっぱり
無茶だったんだ
夜も任務だなんて
司令に言って
辞めさせて
もらおう

大丈夫かい？
この所ずっと
そんな調子だけど…

いやッ

レナ…ウン？

…!!
ご、ごめんなさい
ダメですよ私達の
大事な式の為
なんですから

皮肉にも
この時自覚して
しまったのです

そ、それにっ
任務を途中で
投げ出すなんて
私には出来ません

責任感からではない
任務を続けたいと
思う邪な感情に…

ごめんなさい…
指揮官様

私は…もう







どうだ？
初めての
チンポは？

ああ…
これ…が
ンツ

いままで
見せも触らせも
せなんだからな

ケツマンコで
しかと味わうといい

ヒクッ

ヒクッ

私のなか…
司令で…
いっぱい

ああ

ああッ！
凄いですッ

きききいっ♡

んん♡





どこが気持ちいいんだ？

めめ♡
♡めめ♡



レナウンの
ケツマン♡



あ♡

♡ON^

スゴイの♡
♡おめめ♡



イイぞっ

コッチも
そろそろだ





ふ〜〜〜ッ



さて、任務も
そろそろ潮時だ…

そんな…

そこでだ…
今後の進退は
レナウンに
決めさせてやろう

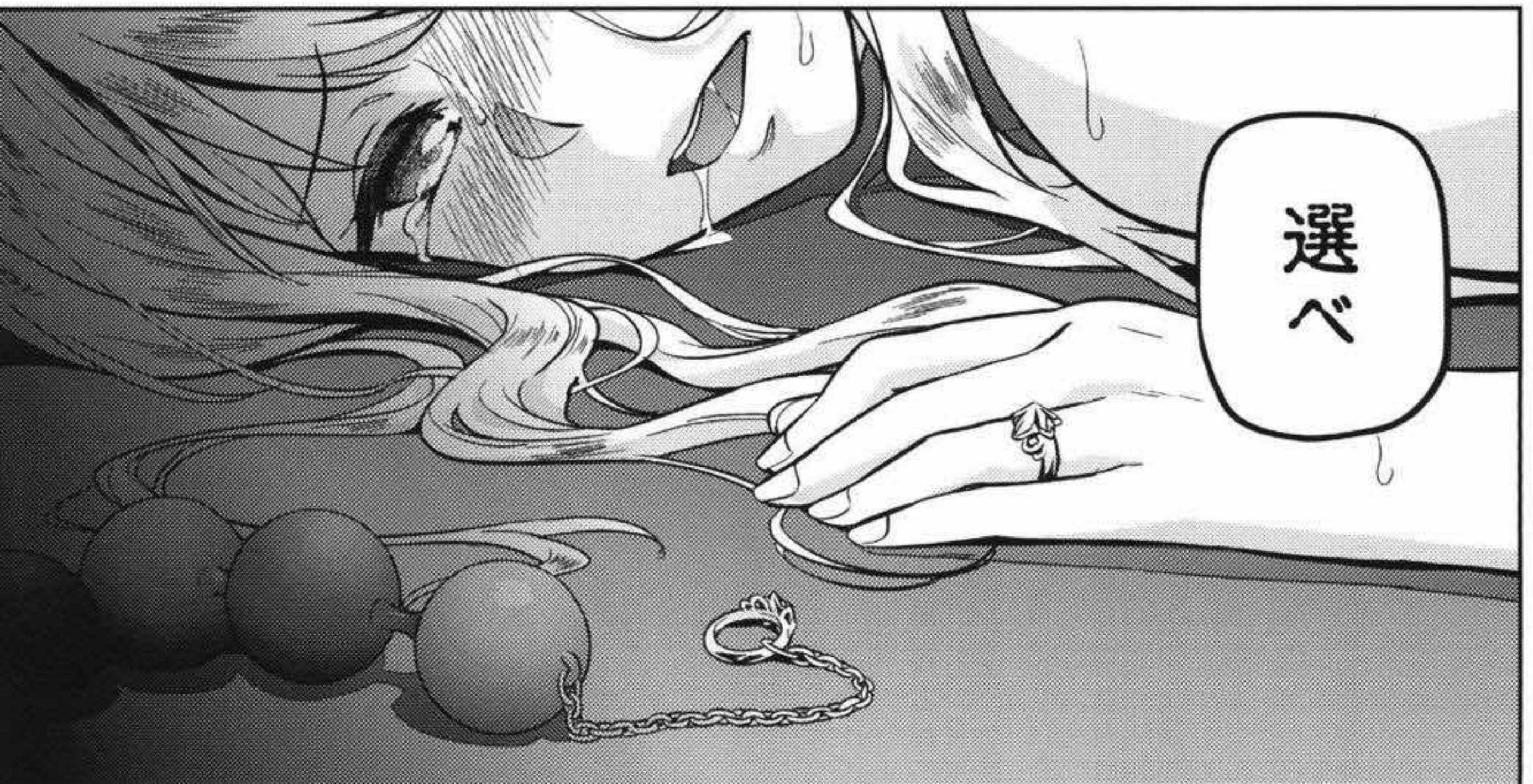
え？



愛しの指揮官様の
元に帰還するか…



このままワシの
ケツ穴奴隷艦
になるか—



選ぶ



asterisk

I

アスタリスク I

2018年 8月12日 初版発行

著 者

轟 真

トドロキ シン

発 行

sin-maniax

シンマニアクス

sin-maniax.blogspot.jp

sinmaniax@gmail.com

印 刷 所

(株)日光企画

未成年の方の閲覧及び購読
無断転載を禁止させていただきます

